講師

中川 美幸

■ 学歴

1. 2020年 福岡県立大学 修士課程卒業

■ 学位

1. 2020年 修士（社会福祉学）

■ 研究分野

1. 医療分野のソーシャルワーク
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 意思決定支援
2. 退院支援
3. 多職種連携
4. 業務の可視化

■ 研究課題

1. 医療ソーシャルワーカーの意思決定支援に関する研究
2024年度診療報酬改定により、すべての病棟において意思決定支援の体制整備が求められる中、医療ソーシャルワーカーは現場でどのような支援を実践しているのかを明らかにする。特に、退院支援やACP（アドバンス・ケア・プランニング）において、患者・家族の意向がどのように確認され、尊重されているかに焦点をあてる。全国の入院医療機関を対象とした調査を通じて、病棟機能・地域差・経験年数などによる実践の特徴や課題を明らかにし、今後の支援の質的向上と制度整備に資する知見を得ることを目的とする。
2. 医療ソーシャルワーカーの業務の可視化と専門性発揮に関する共同研究
介護分野向けに開発された業務記録支援アプリ「ハカルト」を、医療ソーシャルワーカーの業務実態に合わせて再設計し、これを用いた業務記録・分析を行う。業務の種類・所要時間・実施頻度などを定量的に記録し、専門業務とそれ以外の業務を分類・分析することで、医療ソーシャルワーカーが本来の専門性を発揮しやすい環境整備の方向性を明らかにする。別府大学・民間企業との共同研究として実施する。

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワークの理論と方法（専門）（前期・後期）（福祉学科）
2. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（通年）（福祉学科）

3. ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（通年）（福祉学科）
4. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ（前期）（福祉学科）
5. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ（後期）（福祉学科）
6. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ（前期）（福祉学科）
7. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ（後期）（福祉学科）
8. ソーシャルワーク演習（後期）（福祉学科）
9. 福祉入門（前期）（福祉学科）
10. 専門研究Ⅰ（通年）
11. 専門研究Ⅱ（通年）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p>授業科目名【ソーシャルワークの理論と方法（専門）】</p> <p>ソーシャルワークの実践を行う上で問題を抱えた人々を「人と環境の相互作用」と理解する視点を学べるよう努めた。また実践モデルとアプローチ等といった問題解決を図るための基盤となる理論を通して、社会福祉の専門職としての心構え、態度などをイメージできるように、現場での事例を用いて理解を深められるよう工夫した。</p>
2.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】</p> <p>医療ソーシャルワーカーの役割と病院機能など、実習で必要となる基礎知識を中心に実施。また、動画の活用や、現場の経験などを伝えることで、医療ソーシャルワーカーについての理解が深まるよう工夫した。また、実習終了後の振り返りでは、現状と課題を整理し、3年時の実習につながるよう努めた。</p>
3.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅱ】</p> <p>実習前にはグループごとに病院機能などについて、調べ学習をし、全体で共有することで実習に必要な知識が定着するよう努めた。また、ロールプレイを行ったり、医療ソーシャルワーカーの業務指針や倫理綱領について学ぶ時間を取り、より具体的に医療ソーシャルワーカーの業務を理解し、実習に臨めるよう工夫を行った。実習後の振り返りを一人ずつ発表し、全員で共有することで実習報告会の準備を全員で行えるよう努めた。</p>
4.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】</p> <p>事例を個人ワークで考えた後にグループディスカッションを行うことで、より深くソーシャルワークの視点や価値観、倫理観などを学べるよう努めた。また、アセスメントでは、問題点にのみ目を向けるのではなく、本人の持っているリソースにも目を向けるよう努めた。ロールプレイも積極的に取り入れ、実習や現場でも活かせるよう配慮した。加えてロールプレイでは、クライアント体験から専門職の態度や価値観、倫理観についても考えられるような演習を行った。</p>
5.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ】</p> <p>地域に関する事例を個人ワークで考えた後にグループディスカッションを行うことで、より深くソーシャルワークの視点や価値観、倫理観などを学べるよう努めた。地域の課題のみならず、強みにも目が行くよう努めた。実際に地域を歩き、使わなくなった産婦人科をリノベーションし、新しい地</p>

	域拠点の場所として利用している場面を見学し、体感することで学ぶ工夫も行った。
6.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク演習】</p> <p>まずは知識を楽しみながら学ぶため、絵本など身近な物を使いながら演習に慣れてもらうよう工夫した。事例の検討では、個人ワーク後にグループワークを行い、まずは自分の考えをまとめ人に伝えることができるよう行った。他の授業で習得した知識が演習とリンクできるように、現場での体験も交えながら、わかりやすい言葉を使うよう心掛けた。</p>
7.	<p>授業科目名【福祉入門】</p> <p>医療ソーシャルワーカーが病院でどのような実践を展開しているのかを現場の状況交えながら伝え、学生の医療ソーシャルワーカーへの関心を高めることができるよう工夫した。</p>
8.	<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】</p> <p>学生の興味のあるテーマを中心にディスカッションを行った。自分の考えをまとめる力をつけることができるよう、必要に応じ参考文献なども示した。また、実際の現場を見学し、学生が現場を体感できるよう工夫した。</p>
9.	<p>授業科目名【専門研究Ⅱ】</p> <p>学生の興味のあるテーマを中心にディスカッションを行った。自分の考えをまとめる力をつけることができるよう、必要に応じ参考文献なども示した。また、実際の現場を見学し、学生が現場を体感できるよう工夫した。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1990年7月～	福岡県医療ソーシャルワーカー協会	理事（2010年～2022年6月迄） 副会長（2014年～2022年6月迄）
2.	2010年4月～	日本医療ソーシャルワーク学会	理事（2010年度～現在に至る） 事務局長（2015年～2020年5月迄） 会長（2020年6月～現在に至る）
3.	2017年4月～	日本医療・病院管理学会	
4.	2019年4月～	日本社会福祉学会	
5.	2022年10月～	日本医療ソーシャルワーク協会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.	2024年4月	「医療福祉相談ガイド」	共著	明石書店	① 本書は、新人の医療ソーシャルワーカーや医療ソーシャルワーカーを目

		ドブック 2024年度 版」			指す学生、医療・福祉従事者、福祉サービスを利用する当事者や家族向けに作成したガイドブック。 ② 編集代表：村上須賀子、高石麗理湖、徳富和恵、森崎千晴 村上武敏、 <u>中川美幸</u> ③ 担当部分 第3章 社会資源活用の基本と局面での対応 (P36～P52)
2.	2024年5月	「4訂 介護支援専門員研修テキスト 専門研修課程Ⅰ」		一般社団法人 日本介護支援専門員協会	① 介護支援専門員の法定研修である「専門研修課程Ⅰ」のために作成され、介護支援専門員に必要な知識や技術を習得することを目的とした内容。 ② 一般社団法人介護支援専門員協会 ③ 担当部分 「第5章 生活の継続を支えるための医療との連携及び多職種協働の実践」(P132-160)
3.	2024年5月	「4訂 介護支援専門員研修テキスト 主任介護支援専門員研修」		一般社団法人 日本介護支援専門員協会	① 主任介護支援専門員研修のために作成され、主任介護支援専門員としての役割を果たすために必要な知識や技術を習得することを目的とした内容。 ② 一般社団法人 日本介護支援専門員協会 ③ 担当部分 第7章 地域における生活の継続を支えるための医療との連携及び多職種協働の実現」
(学術論文)					
1.	2025年3月	アセスメントを再考する 一解決構築アプローチと診断的アセスメン	単著	「医療ソーシャルワーク研究」 日本医療ソーシャルワーク学会 (No.15)	① 本論文は、ソーシャルワーク実践におけるアセスメントの概念を歴史的に整理し、診断的アセスメントとソリューション・フォーカスト・アプローチ(SFA)の視点から再検討を行ったものである。SFAが重視する「未来志向・強みへの注

		ト一			目」と、診断的アセスメントの「原因解明・客観評価」の違いを明確にしたうえで、両者を現場でいかに統合し得るかを考察した。事例では、医療ソーシャルワーカーが SFA を基盤としながら診断的アプローチも併用することで、柔軟な支援が可能となる実践の可能性を示している。 ② P10
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

任 期	団体・委員会等の名称	役 職 名 等
-----	------------	---------

	期 間 等	(内 容)	
1.	2022年6月1日～現在に至る	北九州市精神保健福祉審議会	委員
2.	2020年6月～現在に至る	日本医療ソーシャルワーク学会	会長
3.			

■ **学内における活動等（役職、委員、学生支援など）**

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023年4月～2025年3月	就職委員会	
2.	2023年4月～2025年3月	キャンパスハラスメント委員会	
3.	2024年4月～現在に至る	国試対策担当	